

トランシーバーも インターコムで使える

ライダーとパッセンジャー間だけでなく、今や仲間とのコミュニケーションツールとして定着したインターコム。これが登場するまでは、その主役は無線機（トランシーバー）だった。

今なおベテランライダーを中心に愛用されている無線機だが、バイクで使う際にはヘルメットに付けたヘッドセット（マイクとスピーカー）と無線機をケーブルでつないで使う必要がある。

このケーブルが何かと煩わしいのは、無線機ユーザーであれば誰しもが感じているところ。そんなケーブルをなくせるのが、セナのBluetooth用アダプタSR10だ。

これは、無線用のヘッドセットをインターコムに置き換え、無線機との間をBluetoothで結ぶためのアイテム。SR10は無線機のヘッドセット用コネクタに接続するだけで使え、ヘルメット側はセナ製品をはじめとした幅広いインターコムやBluetooth用ヘルメットセットが使える。無線の操作は送受信の切替えにPTTスイッチを使うが、これもちゃんとSR10に付属している、今まで通りの操作で通話ができる。

無線機も インターコムと 繋がる

SR10



さらにSR10は無線以外にもナビやレーダー、スマホなどの音をひとつにまとめてインターコムに飛ばせるミキサー的な機能を持っている。そのため、インターコム側の操作も簡単になるのだ。そういう意味でもこのSR10は、無線も含めたあらゆる音声ソースの中心になる存在だといってい

取付方法



PTTスイッチは付属のゴム製バンドでグリップに巻き付けるか、面ファスナーなどでスイッチ付近に取付ける



付属のベルトクリップを背面に取付けられ、トランシーバーと一緒にベルトなどに引っ掛けて持ち運べる

SR10のサイズはスマートフォン程度なので、ハンディトランシーバーと同じように扱える。また、無線の送受信を行うPTTスイッチはハンドル付近に取付けて使う。本体にも大きなPTTボタンが付いているため、バイクから離れても送受信操作ができ便利だ。

機能



インターコム
セナ製品をはじめ幅広いインターコムやBluetooth用ヘッドセットで利用可能。HFPプロファイルを持つ製品であれば原則として接続可能だ



スマートフォン

BluetoothでスマートフォンをSR10に接続すれば、SR10経由で電話の発着信が可能。また、原則としてスマホの音声全般が聞こえるため、スマホに入れた音楽（モノラル）を聴いたり、ナビアプリの音声を聞くのにも使える



AUX(外部入力)ポート1

ポータブルナビやレーダー探知機のような音声出力機器を接続するφ3.5mmミニフォンジャック。音楽プレーヤーを接続して使うのにも最適だ

AUX(外部入力)ポート2

レーダー探知機など音声出力機器を接続できるほか、スマホを4極のケーブルで接続すれば、スマホを通過でも使うことが可能になる



双方向無線機用DINポート

ハンディトランシーバーを接続するためのミニDINジャック。無線機メーカーによってプラグの形式が異なるため専用ケーブルを介して接続する

オプション

SR10とトランシーバーの接続には無線機メーカーごとに用意された別売の専用ケーブルを使う。というのも無線機によってスピーカーマイク端子の形状が異なるためだ。現在、モトローラやミッドランド、ケンウッド、スタンダードといった主なメーカー別に7種類を用意。そのほかのメーカーや車載型無線機のためにコネクタを自作できるオープンエンドケーブルもある。



- 1) ICOM2ピン変換ケーブル
 - 2) 無線機カスタム接続用オープンエンドケーブル
 - 3) ミッドランド用2ピンケーブル
 - 4) Vertex Standard用1ピン変換ケーブル
 - 5) モトローラ用2ピン変換ケーブル
 - 6) モトローラ用1ピン変換ケーブル
 - 7) ケンウッド用2ピン変換ケーブル
 - 8) ICOM、ミッドランド用ストレート2ピン接続ケーブル。
- 価格はすべて3348円



右) 一般携帯電話、スマートフォン用接続ケーブル4極
左) ノキア携帯電話用接続ケーブル。
価格はすべて1512円

無線機専用ケーブルのコネクタはミニDINとなっていて、ロックがかかる構造のため抜けにくい



SR10

価格:2万7216円
通話時間:12時間
連続待機時間:10日間
充電時間:3.5時間
通信距離:10m
(環境により異なる)

ハンディ型トランシーバーをBluetooth用ヘッドセットで使えるようにするワイヤレスアダプタ。レーダーやナビの音声もケーブルで入力できる